

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄り一人ひとりの生きる力を引き出す支援をする」をホームの理念として実践を目指して取り組んでいる。	理念に基づいた考え方の中で毎月の職員会議を行っている。理念にそぐわない言動があった場合には職員会議で議題として取り上げたり、人事考課の際にふれ意識づけをしている。職員は理念に沿い安心してその人らしい笑顔でいられるよう日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例のホーム主催の餅つき行事を公民館を会場として地域の方々と行った。散歩や近所の商店への買い物や地域行事に出かけ、挨拶をしたり話をしたりしている。ホームの行事をお知らせして協力、参加していただいた。	区の総会に管理者が参加し情報を得、ホームの行事についてもお誘いしている。利用者は近所の方と挨拶を交わしたり、商店街の馴染みの人と交流している。防災訓練や餅つき大会、お祭り、サロンなど、地域の方との交流の機会を多くつくるようにしている。傾聴ボランティアの受け入れや認知症サポーター養成講座・男性介護者の会に管理者が出かけるなど認知症に関する相談役としての役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他事業所とともに、認知症サポーター養成講座を寸劇を通して行ったり、認知症を理解していただくサロンの開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜に会議を設置し、公民館で開催したことで、多くの方々に参加いただけるようになった。事業計画を説明し、地域の方との関わりを深めていけるよう理解を得ながらご意見を伺って進めることができており更なるサービスへつなげていく。	奇数月に年6回開催し、家族、区長、民生委員、老人会会長、町職員、同じ法人運営のデイサービスセンター職員が委員となり、ホームからの報告をし、地区やホームの行事について話し合っている。今年度から公民館を活用し、また行事と合わせて開催することもあるので参加者も多く、地区の歴史等も伺いながら活発に意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の地域包括支援センター主催の情報交換があり出席できる範囲で参加している。地域のグループホーム連絡会へも参加し、各ホームを職員が訪問しあい、気づきを深める総合評価を行っている。介護相談員の来訪もある。	毎月地域ケア会議が開催され事例検討や地域包括ケアなどについて情報交換している。今年度は中学校の人権研修の一環として認知症サポーター養成講座を開催した。2月には地元の方を対象に開催できるよう検討している。介護認定更新の調査ではホーム職員が利用者の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関、居間などの施錠はせず家庭と同じ環境を心がけている。利用者が外へ出ようとした時は声をかけたり散歩をして気分転換を図っている。拘束することなく生活を送ることができている。	拘束をしないケアを実践している。管理者が法人の内部研修に参加しホーム会議時に伝達研修している。外出傾向の強い利用者には職員が寄り添い散歩している。必要時最小限にメロディセンサーを使用している利用者がいる。	

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	9月に管理者は高齢者虐待防止法講習会を受けている。職員間でゆとりが持てる介護を心がけ、声を掛け合い虐待に繋がらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し、理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に沿って説明を行いご家族の不安や疑問にわかりやすく対応している。看取りや医療連携体制についても要望をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、電話連絡時に積極的にコミュニケーションを図りご意見や要望を聞き出すよう努めている。	家族が来訪した際には日頃の利用者の様子を伝え、意見・要望を聴いている。電話で小遣いの状況を伝え来訪してもらうこともある。行事に合わせ家族会を行い利用者と共に行事を楽しんでもらうよう支援している。定期的にホームの「なごみ新聞」と手書きの手紙を同封し利用者の様子を伝えたり、法人の全体の「ともしびだより」も配布し各事業所とともにホームの活動を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年2回の人事考課において、意見、提案を聞く機会を設けている。また、職員の気づきを運営に取り入れてやりがいにつながるよう心掛けている。	毎月1回職員会議を行い、午前中のその間はシルバー人材センターに見守りを依頼し、全員が話し合える体制づくりをしている。会議では管理者が毎月出席している法人経営会議の内容報告やケア検討を行っている。人事考課制度を導入しており、職員が日頃の仕事内容について自己評価し、それを基に管理者と個人面談している。日頃から職員間で自立支援や看取りケアなどの難しい課題について話し合い、利用者に合ったケアとなっているかを話し合いながらサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外や有給の取得など実績を尊重し、管理者は現場の状況や職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報を伝え、参加を促している。研修参加した職員は職員会で報告して内容の共有を行っている。業務内容によっては担当を振り分け力量を発揮してもらっている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上小地域のグループホームで組織する相互評価事業で施設間での職員の相互訪問を行っている。訪問後は職員会で報告をしてもらい、サービスの質の向上への取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に慣れるまで傍により、不安な気持ちをお聞きして安心して頂けるようにしている。通所サービスなごみやを利用されている方はグループホームにスムーズに入居することができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に施設を見て頂いている。ご家庭での様子やご家族の望まれている事、今までの経緯など伺いながら、ゆっくり話ができるような雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて必要があればケアマネジャーとも連携しながら柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の知恵を拝借したり、相談をして励まされたりすることもある。生活の場として出来ることはお手伝いしながらやって頂き、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご利用者の様子を手紙でお知らせしたり、普段の様子や行事などの写真をのせた新聞を発行している。行事にはご家族にも出かけて頂くなどご協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の敬老会では、地区の方のところへお連れして馴染みの方と話を頂いた。面会に来られた時はゆっくりお話ができるよう環境に配慮している。	親しかった知人や兄弟夫婦が来訪したり、誕生日に必ずお祝の花が届くこともあるという。趣味で続けていた歌の会の知人が訪れ、他の利用者とも話をしてくれることもある。正月には遠方から家族が来訪し外出したり、病院受診時に家族と自宅に立ち寄ってくる利用者もいる。ドライブで出かけると自分の自宅の方に行くように希望する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にいると安心できる、落ち着ける雰囲気作りで配慮している。利用者同士の関わりを把握し場合によってはさりげなく他の場所にお誘いしたりして職員が調整役となり支援している。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に対応している。他の事業所でご家族にお会いしたりすると思い出話などが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の希望に添うよう起床時間もまちまちで対応している。ことばからの確認が難しくなってきたので、生活の中からのしぐさや表情などから意思を推察したりしている。意思疎通が困難な方はご家族と相談しながら検討している。	職員の声掛けに応えられる利用者が殆どであるが、その言葉が本意であるかを常に考えながらケアしている。言葉でのコミュニケーションが難しい利用者も増えてきており、表情や様子から利用者の気持ちの把握に努めている。甘いものを食べても良い表情を表す利用者もいるという。一人ひとりの生活歴や嗜好を家族や知人から情報として得ながら日々の生活の中でできることを充分把握し、そこから会話や支援に広げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会に来られた方から話を伺ったり、ご本人との会話の中から得た情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の申し送りで様子をしっかりと伝え、介護日誌や連絡ノートへの記録を徹底している。日中の様子も職員間で確認しながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度ケース検討を行いケアの在り方を見直している。モニタリングやアセスメント、職員のレビュー等をして修正や追加内容を加えてから正式なプランを作成している。	本人や家族からの意向を基に担当者が素案をつくり、計画作成担当者や他のスタッフの意見を加え全員で作成している。3ヶ月ごとにモニタリングをし見直しもしている。法人内の研修でも、ケア目標の視点で記録し次回計画につなげていくことが課題として挙げられ、職員全員で心がけている。記録の様式も昨年見直しをかけケアにより活かせるものに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こちらの声掛けに対しての反応や、様子の変化など職員間で情報を共有しながら、個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況に応じて柔軟な対応ができるように心がけている。受診の付き添いや職員が散髪を行うなど対応している。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会により傾聴ボランティアが来て下さりゆっくり話を聞いて頂いたり会話を楽しまれている。いきいきサロンも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診の継続が難しくなった利用者の方はご家族の同意のもと地域医療機関へ移行している。必要に応じて受診の付き添いを行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診している。協力医が主治医となっている利用者は訪問診療を受けている。その他の医療機関には家族が付き添い受診し、その際情報提供書で生活の様子を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時は訪問看護師と連携し医療受診につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域医療による訪問看護ステーションと24時間体制が取れており相談できる体制が取れている。月1回の訪問看護で日頃の様子をお伝えしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療機関と訪問看護ステーションが同一事業であるため連携が取りやすくなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応方法などご家族と確認は取れている。また終末期の対応はご家族、医師、事業所との話し合いのもと訪看とも協力しながら取り組んでいる。	契約時「重度化した場合の対応に関わる指針」について説明し同意を得ている。昨年6月に開所以来から入居していた利用者の看取りケアを行い最期を見送った。職員は研修を受け医療との連携の下、本人や家族の希望に沿うことができるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者によくみられる症状に対しての判断や手当て等は研修を受けたり、看護師の指示を受けて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。今年度は地域の方にも協力を頂き地域の消防団の方とも連携し消火手順の確認をした。運営推進会議でも防災について検討ご意見を頂く。	年2回の防災訓練を地区と合同の実践的な内容にしようと、年度当初から運営推進会議で区長や老人クラブ会長、消防団の助言をいただきながら計画を立て、10月に実施した。その際非常ベルが近隣のどの家まで届くのか地区の方の協力を得て把握し対策も立てている。また2階の利用者の避難訓練を繰り返したり、庭の物置に備蓄品をそろえる等、有事の際に備えている。スプリンクラーの設置も近々予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重してことば掛けを行うように心がけている。	人権の尊重とプライバシー保護について定期的に研修している。呼び方は利用者に今までの呼ばれ方を聞き名前か苗字にさんをつけている。入浴や排泄の支援で異性介助を好まない利用者には配慮して臨機応変に対応している。今まで培ってきた生活力を出来るだけ維持できるように支援している。病気の変化に苛立ちを表出する利用者に対して、利用者本意のケアが重要と考え職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で利用者の方の気持ちを読み取ったり希望を表現しやすい声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にその日の体調に配慮しながらソファで過ごされたり居室で休んで頂いている。その場の雰囲気を読み取り、個別でお誘いして対応したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔時に鏡を見て頂き、髪をとかしたり髭そりをして頂いている。外出時は季節に合わせ出かけることを意識して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けの段階でお手伝いをして頂ける方は職員と一緒にしている。食事も職員も一緒に日常会話を楽しみながら楽しく食事をして頂けるよう心がけている。	家庭菜園で採れた野菜や近所からの差し入れの材料を取り入れ、その日の職員が調理している。ミキサー食やとろみをつける等食べやすい形態にしている利用者が半数、全介助が必要な方が数名で、時間をかけて利用者のペースで食べられるよう支援している。週3回、昼食に配食弁当を利用したり、買い物はネット注文を使うなど利用者と向き合う時間を大切にしている。外食に行くことができる利用者は道の駅等に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を確認しながら行っている。嚥下の状況を考慮して刻み食やミキサー食にしている。残量や水分摂取量を職員間で確認しながら、臥床の長い方には留意して取れるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	臥床、就寝前に口腔ケアを行っている。出来るところは自力で行って頂き、職員が補っている。出来ない方には、ガーゼなどを使用して行っている。朝、昼食後はトイレに立たれた時などに、お声をかけて行うようにしている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがなかなかつかめない方もおられるが、声掛けをしたり、職員間でも確認しながらタイミングを計っている。体勢に気がつけながら出来ることまで見守っている。	ほとんどの利用者が介助を必要としており、オムツやリハビリパンツを使用している。夜間のみポータブルトイレを居室に置き職員の介助で使用している利用者もいる。利用者のペースで時間をみて誘導することで失敗が少なくなっており、利用者が行きたい時にタイミング良く支援している。尊厳を持って羞恥心に配慮することを忘れないようケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で排便のない日数を記入して、便秘の方には牛乳やヨーグルトなどを摂って頂いている。活動量が少ないことも意識して心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在入浴は午後夕方までの時間帯に行っているが、一人ひとりの気持ちやタイミングに合わせて行うようにしている。	利用者の状況に合わせて1日3人～4人入浴し、高齢で重度の利用者は起きている時間が短いので、タイミング良く支援している。座位保持が難しい利用者はシャワー浴で温まるようにしている。季節によりゆずなど入れ楽しめる工夫もしている。お盆に家族と外出した時に温泉に一泊した利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動やその方の生活のペースで居室で休んで頂いたり、横になっていただいている。就寝はゆったりとした気持ちで休めるよう心がけている。夜中寝付けない方には職員が添い寝をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護と薬についての研修会に参加し、職員会で報告をした。状態の変化が見られた時にはご家族に伝えたり処方の変更時は職員間の伝達把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など職員と一緒に出来ることを行ったり、散歩やカラオケなどで気分転換をしている。手伝って頂いた時は感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前より外出の機会が少なくなっているがディサービスの送迎に同行したり、季節ごとのドライブなどに出かけるなどの支援に努めている。地域の道の駅に出かけ、軽食を取るなど地域交流を心がけている。	暖かい日には散歩や日光浴で外の空気を感じられるよう支援している。車椅子の方も2ヶ月に一度、天気の良い日に散歩をしながら同じ法人のデイサービスに体重測定に行っている。年間で行事計画が立てられており、利用者の希望を聴きながら花見、紅葉狩、地区の催しなどに少人数で出かけている。買い物や外食は個人の希望に沿って支援している。	

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を処理することは困難であるがその方に必要なものは本人にお話したり職員内で相談して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話や手紙を使うことは困難であるため必要に応じて職員が代わってお礼や連絡を取っている。毎年、家族や知人には近況を書いて年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと民家であるため家庭的な環境の中で日常生活を過ごすことができている。限られたスペースのため狭さも感じるがテレビを壁掛けに変えたりした。コタツがあることでコタツを囲んで人が寄り添い温かい雰囲気がある。	居間からは夏にトマトやきゅうりが採れる家庭菜園が見られ、長方形の炬燵を囲みテレビを見ながら話をしたり、昼食を摂っていた。カラオケ好きな方が多く、デイサービスの利用者も一緒に楽しんでいるという。食堂では主に車椅子の方が食事をし、職員と話をしながらゆっくり過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中では一人だけの空間はないが、いつでも好きな時に居間と台所を行き来して頂き思い思いに過ごして頂いている。気のあった方同士話がしやすいように座われるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たくさん物は持ち込んでいないが写真を飾ったり、服をかけたりにしている。ご家族が見えた時などは居室でゆっくり過ごして頂いている。	各居室の広さは6畳～8畳でエアコンや押し入れがあり必要なものが整理整頓されていた。ベットの周囲にカーペットを敷いたり、炬燵や仏壇、家族の写真、誕生日に職員から贈られた色紙などが飾られ思い思いの居室となっている。2階の居室からはホームの横に流れる追川を眺めることができ、せせらぎの音が心地よい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家を改修しているが、バリアフリーではないので小さな段差はたくさんあるが、足元を気をつけて頂くようことば掛けをしたり、手すりを使って歩いたり、家庭風呂を手すりにつかまって入浴して頂いている。		